

ベルトをしていたので父にけがはなかった。

僕はその話を聞いて、熊はいつ、どこからとび出してくるか分からないので、とてもこわいと思った。

夏休みに入り、誕生日を迎えた。お祝いにお金をもらったので、自分の体にあつた自転車を買った。さっそくそれで、初めて自転車で中学校まで行った。ヘルメットをかぶり、出発。しばらく細い歩道が続いたが、徐々に広くなっていき、調子に乗ってスピードを出してしまつたが、転ぶことなく走れた。学校まであとは長く急な坂を自転車から降りて、押しながら登り、なんとかたどり着くことができた。

部活動を終えた帰り道、疲れる。腹が減った。暑くて注意力が落ちていたので、ゆっくりとしたスピードで帰った。初めての自転車通学は、祖母に心配されたが、安全に気を付けて運転することができたし、いい運動にもなった。

ある日のこと、「お年寄りが左右を確認せず道路を渡ってきて、危なくひいてしまつとこだった。」と母から聞いた。夕方、太陽が沈んで、車のライトをつけて走っていても、お年寄りが黒っぽい服装をしているので、運転している人には見えづらい。

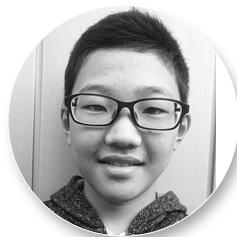
事故にあわないために、反射材をつけて、周囲の安全を確認して渡してくれることで、事故が起きないと思う。

交通事故にはさまざまな原因があり、本人の不注意だけではなく、思いがけな

い原因で事故にあつたり、起こしてしまつたりすることがある。だから、みんなでお互いに、気をつけなければならぬと思う。

藤里町交通事故死者ゼロをこれからも更新していけるよう、まず僕自身が十分に気を付けて、自転車の安全運転をしていく。そして、町の人みなとともに「急がず、マナーとゆとりで交通安全」を心がけていきたい。

『交通事故ゼロの町めざして』



淡路 海地さん

藤里町の交通事故死亡事故ゼロが5,800日以上続いています。また、ぼくたちは、毎年学校の交通安全教室で自転車のマナーについて教わっています。でも、自分がどんなに気をつけていても、交通事故は起きてしまいます。一体、交通事故はなぜ起きるのでしょうか。

交通事故の原因は、わき見運転、携帯操作、スピードの出すぎ、飲酒運転、前方不注意、雪道のスリップなどが考えられます。でも、この他にも原因はたくさんあると思います。

ぼくが、父の車に乗っているとき、危ない自転車の乗り方をしている人を見か

けました。ぼくは、

「危ないなあ。」

と言いました。父は、

「どんなに危ない自転車の乗り方をしていても、ひいてしまつたら、車を運転している人が悪いことになつちゃうんだよ。」と言いました。不思議に思うと、

「車は、凶器になるんだよ。」

と教えてくれました。確かに、歩行者や自転車に乗っている人からみれば、車は大きくてかたいです。たとえゆっくり走っていても、歩行者や自転車の人にぶつかったら、けがをしたり、命をうばつたりすることになります。

ぼくは、自転車に乗って遊びに行く時、自分ではルールを守っているつもりですが、これからも気をめかずに周りを見て、運転したいと思っています。

母から、こんな話を聞いたことがあります。母が「交通安全母の会」の講演会で「遺書」という講演を聴いた時の話です。飲酒運転をしたAさんが、前の車を追いこそうとして、対向車とぶつかり、Aさんと対向車の運転手の2人とも亡くなつてしまいました。Aさんには、奥さんと2人の子ともがいて、相手の家族に家にある物をお金や退職金など全てを渡して謝ったけれど、許してもらえませんでした。これは、40年以上も前の話だそうですが、ぼくは、悲しくて、こわくなりました。事故は、周りの人みんなを不幸にします。ぼくは事故を起こす人にも、事故に巻き込まれる人にも絶対になりたくないと思いました。

先日、母が車でぼくを学校に送ってくれた時、学校から出ようとしたところ、子どもが自転車に乗って走ってきたそうです。道路を横断するかもと思い、車をとめたところ、その子どもも車を見て止まりました。子どもはにっこり笑って、「どうぞ。」と合図を送ってくれましたが、母も「どうぞ。」と合図を送りました。その後、また、その子が合図を送つたので、母は手をふって、先にいくことにしたそうです。こんな風に、お互いを思いやり、ゆずり合うことができれば、安心です。みんなが、自分と大切な家族の命を守るように、一人一人が交通ルールをしっかりと守り、思いやりの気持ちをもつて生活する藤里町であってほしいと願います。



「思ひかけをしよう」
藤里中学校一年 小田原 圭
「急がず」マナーとゆとりで

